

## 用語の考え方や定義等について

前回林政審議会においては、新たな森林・林業基本計画では、キーワードとなる言葉を使いメリハリを付けて記述することは重要だが、その考え方や定義等を示しておくべきとの意見があった。

これを踏まえ、基本計画の本文案においては、以下の考え方が明確となるよう、記述していく方向。

### 1 グリーン成長

OECD の報告書において、「グリーン成長」とは、経済的な成長を実現しながら私たちの暮らしを支えている自然資源と自然環境の恵みを受け続けることであると考えられている。(環境・循環型社会・生物多様性白書)

これを踏まえ、新たな基本計画では、森林の適正な管理と森林資源の持続的な利用を推進することで、林業・木材産業が内包する持続性を高めながら成長発展させ、人々が森林の有する多面的機能の恩恵を享受できるようにすることを通じて、社会経済生活の向上・カーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」を実現する旨記述する方向。

### 2 新しい林業

林業は、造林から収穫まで長期間かかり、厳しい自然条件下での人力作業が多いといった特性を有しており、このことが低い生産性や安全性の一因となっている。これを抜本的に改善するためには、従来の森林施業の方法等を見直していく必要がある。

これを踏まえ、エリートツリーや自動操作機械等の新技術を森林施業に取り入れ、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」を目指す旨記述する方向。

### 3 国際競争力と地場競争力

「競争力」の概念は曖昧で、その定義や尺度は必ずしも明確でない。例えば、経済財政白書では、「国際的な競争にさらされる中で、企業が高い所得を生む能力」と定義して論議している。また、産業競争力強化法では、「産業競争力」を「産業活動において、高い生産性及び十分な需要を確保することにより、高い収益性を実現する能力」と定義している。

これを踏まえ、新たな基本計画では、製材合板工場等が、何に対する、どのような能力を高めていくのか明らかとなるよう記述する方向。

- ・ 国際競争力：主に大規模な工場等において、品質性能の確かな製品を低コストで安定的に供給し、外材や他資材に対抗できる能力
- ・ 地場競争力：主に地場の中小工場等において、地域の関係者と連携する等して、多様なニーズをくみ取り、製品の優位性等を向上させて高い収益性を有する能力

#### 4 イノベーション

従来は「技術革新」という言葉の置き換えとして使用されてきたが、近年では、発想転換や事務処理システムの工夫等も含むものへと意味が広がっている。その成果としては、価値の創造、経済社会の変化等も含んでいる。

森林・林業分野においても、伐採再造林の一貫作業や低密度植栽等の作業工夫、エリートツリー等の育種育苗技術、ICTや自動操作機械等の技術が進展し、これらを積極的に活用することが重要となっている。

イノベーションの概念は、上記のとおり幅広いものであり、新たな基本計画では、具体的に、「林業イノベーション現場実装プログラム」（農林水産省策定）に基づく取組を進めるといった記述をする方向。